第100号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
携帯 090-1568-4623
〈E-mail〉
matsuoka@kosanji.or.jp

廣讃寺ジャーナル第一〇〇号となり

平成20年4月

『親鸞聖人七百五拾回御遠忌(待)にあたり寺報発刊に憶う』

という言葉から始まりました。その願いはその後に続く文章の通りです。

平成23年5月に住職が亡くなりました。住職は亡くなるまで新聞に携わり、その年の7月号で『住職還浄』というお知らせから私が新聞をまとめております。しかしその願い通りになっているかをかえりみるに、何とも自信なく。ふらふらと100号までなったのだな、というのが正直な感想です。発刊から8年以上が過ぎました。今一度、第一号の発刊の願いを思い起こし今後も廣讃寺ジャーナルを続けていきたいと思います。

(1) 平成20年4月　廣讃寺ジャーナル　第1号

廣讃寺ジャーナル

初刊号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

親鸞聖人七百五拾回御遠忌(待)にあたり
寺報発刊に憶う

一、聖人の面影をしたいて
一、念仏の根源を思いて
一、同朋唱和の実をもとめて
一、先人・後人・相続の誠をいたし
一、人類皆、等しく弥陀浄土に生まれんことを

右私達の希望を高らかに掲げるものである

平成二十年四月一日

発刊第一〇〇号を紀念して思う事

伊藤和美

廣讃寺ジャーナル発刊後、私は、仏教の事、同朋会、女人講、二十八日講等を投稿しました。平成二十八年七月で発刊から一〇〇号となりますが、私の投稿は半分の五〇号を超えました。その記録を次のページに想い出として記載します。

廣讃寺ジャーナルに投稿した記録

伊藤和美

No.	発行年月	ジャーナルNO.	題名
1	2009年3月	12号	五帖和讃について
2	2009年5月	14号	極楽探しの旅
3	2009年7月	16号	納涼大会の想い出
4	2009年8月	17号	復興永代経によせて
5	2009年9月	18号	稲葉地六地蔵
6	2009年10月	19号	写真を撮って六十年
7	2009年11月	20号	三代の出家
8	2010年2月	23号	廣讃寺の五葉松
9	2010年3月	24号	おめぁさんしってらぁすかなも
10	2010年5月	26号	廣讃寺同朋会について
11	2010年8月	29号	阿弥陀経について（1）
12	2010年9月	30号	阿弥陀経について（2）
13	2010年10月	31号	阿弥陀経について（3）
14	2010年11月	32号	阿弥陀経について（4）
15	2010年11月	32号	廣讃寺同朋会
16	2010年12月	33号	阿弥陀経について（5）
17	2011年1月	34号	阿弥陀経について（6）
18	2011年2月	35号	廣讃寺二十八日講総会に思う
19	2011年3月	36号	阿弥陀経について（7）
20	2011年7月	40号	ご院主様が亡くなった
21	2011年9月	42号	阿弥陀経について（8）
22	2011年10月	43号	廣讃寺秋の境内大掃除
23	2011年11月	44号	阿弥陀経について（9）
24	2011年12月	45号	嘘のような本当の話
25	2012年2月	47号	廣讃寺物語
26	2012年3月	48号	阿弥陀経について（10）
27	2012年4月	49号	阿弥陀経について（11）
28	2012年7月	52号	誰だかわかるかな～
29	2012年8月	53号	阿弥陀経について（12）
30	2012年9月	54号	阿弥陀経について（13）
31	2012年10月	55号	阿弥陀経について（14）
32	2012年11月	56号	前坊守さまご逝去によせて

33	2013年2月	59号	寺西さん(みいちゃ)と私
34	2013年3月	60号	阿弥陀経について(15)
35	2013年4月	61号	阿弥陀経について(16)
36	2013年8月	65号	ふるさと稲葉地（1）
37	2014年2月	71号	ふるさと稲葉地（2）
38	2014年4月	73号	廣讃寺を支えた女人講
39	2014年6月	75号	ふるさと稲葉地（3）
40	2014年7月	76号	廣讃寺同朋会五十周年
41	2014年11月	80号	同朋会団体参拝寺院一覧
42	2014年12月	81号	第一回本山上山奉仕の想い出
43	2015年2月	83号	廣讃寺本堂の歴史（1）
44	2015年3月	84号	廣讃寺本堂の歴史（2）
45	2015年6月	87号	廣讃寺本堂の歴史（3）
46	2015年7月	88号	納涼大会の想い出
47	2015年9月	90号	廣讃寺本堂の歴史（4）
48	2015年11月	92号	廣讃寺の鐘楼でのエピソード(1)
49	2015年12月	93号	廣讃寺の鐘楼でのエピソード(2)
50	2016年4月	97号	清寿庵報恩講、終了につき
51	2016年7月	100号	私の投稿の記録

日野の里を訪ねて（1）

村上三智雄

五月晴れに一度は行ってみたいと思っていた親鸞聖人の生誕地と法界寺に出かけた。二つの寺院での感想をお伝えします。

京都駅でＪＲ奈良線に乗り換え六地蔵で降りる。そこから市バスで日野誕生院行きに乗ると終点が目的地である。京都駅から四十分くらいのところにあるので意外に近く感じた。好天で朝の十時ごろであったが汗をかくような暑さでうんざりした。

誕生院は思ったより小さな寺であったが、大阪の四天王寺を思い出すような建物で山門を入ると左右に回廊と中庭は白い小石が敷き詰められて真ん中に灯篭は一灯だけあり、そばの石畳を渡って本堂に入る。中央に丈六の阿弥陀如来坐像がある。この堂宇は西本願23代の頃に創建されたから百年ほどしか経っていない。意外だったのは本山のような建築ではなかったことだが、聖人は聖徳太子を崇敬されていたことを思い出し

て納得した。一方、法界寺では本尊は同じであるが拝観料がいるし、阿弥陀様より薬師堂のほうが人気があったようだ。源平合戦の頃で世の中が乱れていたから人々は来世の幸せとか病気平癒の祈りを込めて盛んに参ったのであろう。年輪が浮き出ている四柱や手すりを見ると何百年も経た表情を示してくれている。こちらは堂や像も、さらに薬師堂も国宝や重要文化財になっている。

聖人の幼少（9歳まで）の頃は家の前の寺として父母とよくお参りや、兄弟や近くの子供と遊んだところではないかと思う。ただ4歳で父を、8歳で母を亡くしているので尋常な家庭で育てられたとは思えませんから、遊び半分の思いで阿弥陀様に手を合わせられたのではないと思います。あれやこれやと考えつつ、日野の里をたち石田より地下鉄で東山の青蓮院へ行った。聖人が9歳で天台座主慈円のもとで得度されたところで日野の里とは違って人がいっぱいで、また参るはと早々に帰路についた。

行事予定

七月

九日(土) 七時半　同朋委員会・例会（役員は七時）

十九日(火) 二時～四時　学習会

二十四日(日) 六時　納涼大会（雨天決行）

納涼大会

ボールすくい・輪なげ・ビンゴ大会などなど…
楽しい催し物がいっぱい。どなたでもご参加下さい。

二十五日(月) 八時　後片付け

二十八日(木) 十時　二十八日講・女人講

八月

四日(木) 二時　常任委員会

十三日(土) 七時半　同朋委員会・例会（役員は七時）

十九日(金) 二時～四時　学習会

二十八日(日) 十時　二十八日講・女人講

【20組行事予定】九月七日(月)

日帰り団体参拝バス旅行　参加費…八〇〇〇円(予定)
締切り…八月九日

長浜別院、八幡別院を参拝します。黒壁スクエア、近江八幡の町並を散策します。出発地は、名古屋駅とJA稲葉地になります。詳細はチラシにて。